

V214a TMT 計画：ハワイ建設許可状況とバックアップサイト選定

家正則、臼田知史、ほか TMT 推進室（国立天文台）、Henry Yang（カリフォルニア大学）、Edward Stone, Gary Sanders 他（TMT 国際天文台） TMT 国際天文台評議員会

2015年12月ハワイ州最高裁は、ハワイ州土地天然資源局 BLNR が2011年に認可したマウナケア山頂域の TMT 建設のための保護地区利用許可 CDUP の審理手続きに瑕疵があったとして、再審理を命じた。TMT 国際天文台としては、大変遺憾な事態となったが、再取得手続きを進めている。2017年前半に CDUP を再取得できると想定しており、その後、山頂工事再開準備を進め、2018年4月から山頂工事を本格化することを期している。

TMT 国際天文台は、5月の評議員会で、マウナケアでの建設を目指すことを再確認したが、万が一ハワイでの建設が困難になるという事態になった場合に備えて、ハワイ以外の建設候補地の調査を平行して行うことを了承した。検討対象の候補地は順不同で La Palma (Spain 2250m)、San Pedro Martir (Mexico, 2830m)、Ali (China, 5000m)、Hanle (India, 4500m)、Honar (Chile, 5350m) と MacKenna (Chile, 3100m) である。選定の観点としては、天文観測条件、受け入れ側の意向、使用許可手続き、建設コスト、などが考えられる。2016年10月の評議員会には日本以外のパートナーがハワイ以外の建設候補地について意向表明を行う可能性がある。ハワイでの利用許可審議の状況が改善しない場合に、マウナケア山頂域での TMT 建設を断念する条件や、その決断時期については、TMT 国際天文台評議員会にて引き続き協議し、全パートナーの合意の上で決定することとなる。日本としてはハワイでの建設を最優先する立場に変わりはないが、ハワイ以外の建設候補地について、日本の立場を明確にするために、学界との議論の機会を設け、意見をとりまとめる予定である。

本講演では、本件についての最新状況を報告する。